

「令和元年度中四国産学連携合宿授業～学生の未来を創る研究会～」を実施しました

「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制設備事業」の継続事業として、「令和元年度中四国産学連携合宿授業～学生の未来を創る研究会～」を、令和元年8月29日～8月31日にサテライトキャンパスひろしま(広島市中区)にて実施した。

本事業は、県立広島大学主催で、公益財団法人マツダ財団の協力により、2泊3日集中合宿形式で実施。

講義内容は、他大学の学生とチームになり、米国や欧州、中国の各市場の担当者となり、その市場に合った「10年後の若者のための車」を商品企画する。

チームで、ゴールに向かい、最善の結論を導き出すために、理性的に、批判的に、意見交換を繰り返し、「議論」する。正解のない課題解決のためにどうすれば良いかを、自分たちで考え、解決方法を見つける。「正解のない課題に立ち向かう力」を身に着けることを目的としている。

自ら考え、論理立て、聞く側を納得させることは、社会で必要な力であり、そのために必要な「気付き」を与え、行動の変化を起こすことで、就業力育成に繋げている。

日 時：令和元年8月29日(木)～令和元年8月31日(土)

場 所：マツダ本社、サテライトキャンパス広島

参加大学：県立広島大学、岡山県立大学、岡山理科大学、四国大学、島根大学、島根県立大学、広島修道大学、倉敷芸術科学大学

参加人数：学生25名、マツダ財団1名、参加大学教職員8名

最優秀：チーム名；カレーライス コンセプト；次世代ポケットカー 担当市場；欧州

講義終了後の学生のコメントを一部紹介します

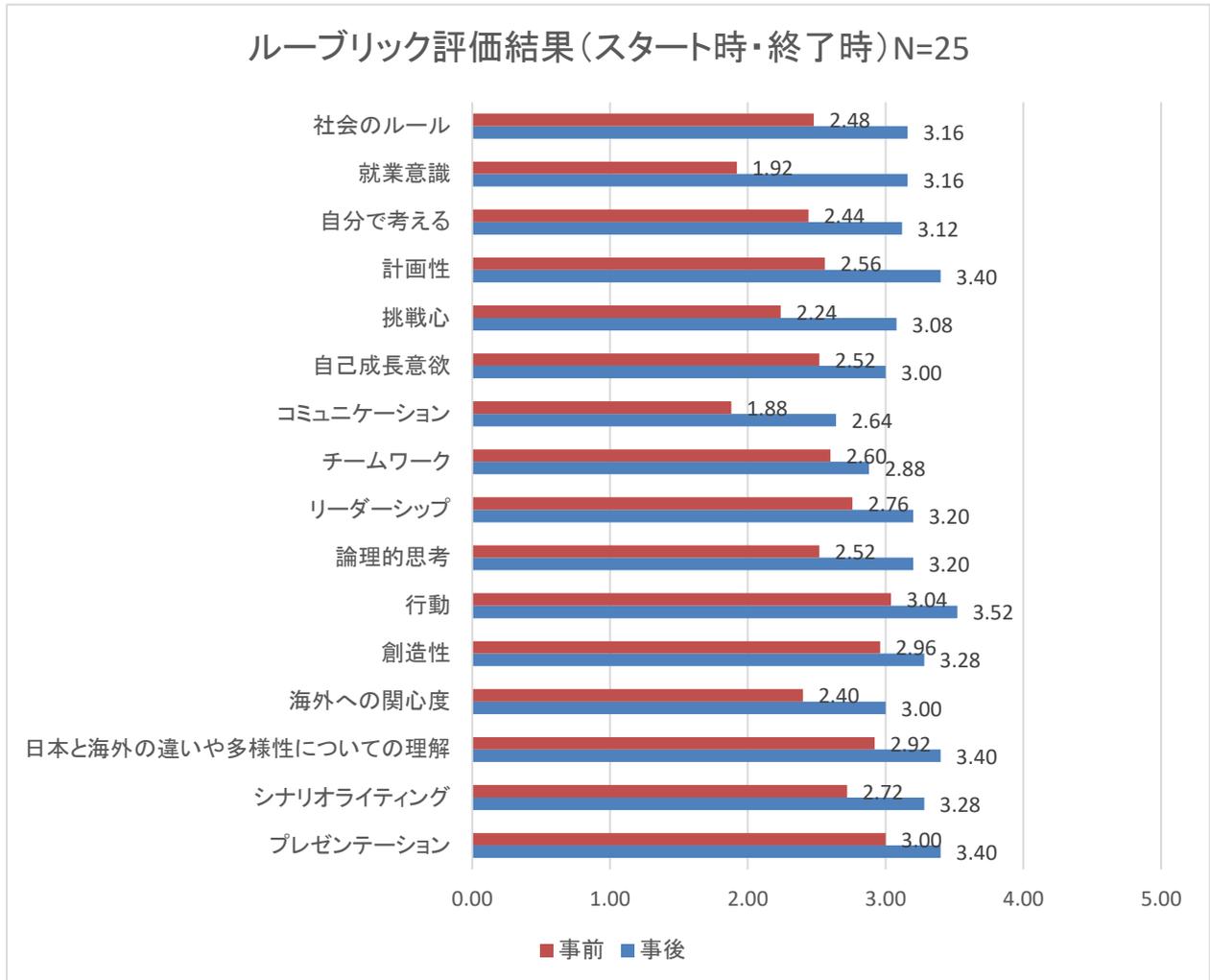
- ・ 授業前では自分の専門分野や得意なことの視点から意見やアイデアを出し、チームに貢献することを目標としていましたが、専門分野はもちろん、チームメイトの専門分野に対しても疑問や意見アイデアをだし、バイアスをかけていない状態でチームに貢献することができました。また、異分野や初対面のチームメイトとの新しいことを考えることの楽しさ、難しさ、大切さに気づくことができ、アイデアを出すうえで一見関係のない雑談がとても大切であることに気づかされました。
- ・ 非常に濃い合同合宿だったと思います。初対面の人たちとコミュニケーションをとって、ともに同じゴールを目指し、活動していく中で自分に足りないことや、自分にできることが明白になったと思います。正解のない課題へ取り組むことの難しさ簡単さは表裏一体だと僕は思います。ちょっとした発想と論理で前にすすむことができる体験ができたと思います。今回は車の商品開発でしたがこの合宿内容は、すべての仕事に共通していると強く感じました。
- ・ 今回考えたのがグローバル市場ということで、初めは全く関心のなかった海外にも興味がわき、さらに深く学びたいと考えられるようになった。デザインの勉強をしていると正解がないことばかりで苦しむことが多かったが、今回の合宿で解決の糸口や考え方が得られたと思う。

【授業後の満足度】

参加者 25 名中（100%回答） 4 件法 平均値 3.56

4：満足→16名 3：やや満足→8名 2：やや不満→0名 1：不満→1名

■授業前後の伸び評価結果



総合的に、すべての評価項目で数値が上がる結果となり、昨年度と同様の結果となった。

伸びの数値が高かった上位3つと挙げると、1位「就業意識」2位「挑戦心」「計画性」3位「コミュニケーション」であった。

「10年後の車を企画する」というテーマに沿って、工場見学では専門アテンダントや講師が加わることにより、深まる臨場感が学生たちの未来を創造するイメージへとつながり、「就業意識」が日々高まっていったと思われる。「挑戦心」や「計画性」については、ガントチャートを用いることにより、限られた時間で自分たちの役割を見つけ出し、正解のない課題にどのように立ち向かっていくかを議論していく中で、初めて出会う仲間との交流を深め「コミュニケーション」が意識されていった。同時に「行動」についても評価が高く、さらにコミュニケーションを深めることによって評価が低く見られた「チームワーク」にも変化が期待されるのではないかと感じられた。



【マツダミュージアム見学】



【グループワーク】



【プレゼンテーション】



【集合写真】